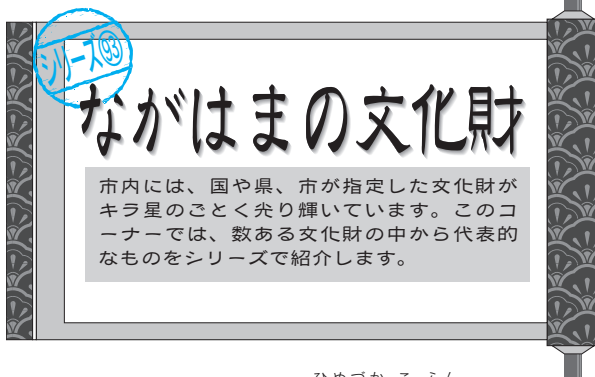




▲上空から見た姫塚古墳



▲姫塚古墳所在地



県指定文化財 史跡 姫塚古墳
指定日：昭和57年3月31日
所在地：高月町東柳野

姫塚古墳は、高月町東柳野の平地に築かれた全長72～80mの前方後方墳です。全国には10万～20万基の古墳があると言われます。市内には現在、約830件の遺跡が発見されており、その内192件は古墳・古墳群です。古墳が集中している場所を古墳群と呼んでいるので、市内に分布する古墳の数は600基以上あると考えられています。

古墳は造られた形から、前方後円墳(上から見て○と□が接合する形)、前方後方墳(上から見て□と□が接合する形)、円墳(上から見

て○の形)、方墳(上から見ると□の形)など様々な呼び方があります。

全国に分布する古墳のほとんどは円墳と方墳で、前方後円墳は約5,000基、前方後方墳は約200基が分布していると考えられています。

古墳は、土を盛り上げて作った墓で、各地域の有力者がムラの人々とのつながりや、日本の社会における立場を確認するための儀式を行う場所として使用し、300年間ほど続いた古墳時代において人々の間で共通の基準が生まれていたようです。

姫塚古墳は、墳丘の東・西側丘陵がかなり削られた、前方後円墳と考えられていました。しかし、確認調査を行った結果、古墳の表面に貼られた葺石の底の部分がみつけれ、そこから前方後方墳であることが判明しました。古墳の造られた時期は古墳時代の初めと考えられます。

姫塚古墳の西の山には古保利古墳群(132基の古墳)と呼ばれる古墳群が築かれています。姫塚古墳は最初に山上から平地に場所を移して築造されたもので、広域



▲北から見た姫塚古墳

問 歴史遺産課

(☎6516510)

新年おめでとうございます。今年「平成最後」の年であり、大きな節目の年となります。振り返りますと、昨年5月に市で「全国みどりの愛護のつどい」を開き、皇太子ご夫妻をお迎えしました。皇太子ご夫妻は、式典での市内小学生の元気いっぱい「美しい長浜の緑を私たちがしっかりと守っていきます」との宣言に感動されて優しく声をかけられたり、「富田人形」の出演に大きな拍手を送られたり、美しいびわ湖を背景に記念植樹をされました。皇太子ご夫妻のさわやかで優しい笑顔が印象的でした。今年の5月から新しい時代の象徴として活躍されますことを心からお祝い申し上げます。

5月からは、新しい「元号」になり、新しい時代のスタートとなります。市も新しい時代を迎えますが、美しい自然や歴史・文化は未来永劫続いていきます。

新しい年は、市の更なる発展をめざし、「挑戦と創造」をスローガンにまちづくりを加速させてまいります。今



※至誠通天 誠を尽くせば天が味方してくれること



▲平成30年仕事始め式

年は市役所跡地に市民生活に直結した機能が集約された「産業文化交流拠点施設」が、虎姫地域・余呉地域には「まちづくりセンター」が完成します。それぞれの地域の拠り所として大きな期待が寄せられます。また、新しい西浅井診療所が完成し、地域の皆さんの健康づくりと安全・安心の施設としての活動が始まります。

今年も、長浜の資産を最大限活用し、市民の皆さんとともに住みやすいまちを作りあげてまいりますので、一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年も皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

市立病院通信-93-

お元気ですか



呼吸器外科 責任部長 田久保 康隆

呼吸器疾患の最新治療(ゲノム時代の肺がん治療)について

いまや世界の医療は遺伝子解析に基づく分子機構からの治療の時代になっています。それをゲノム治療といいます。精密医療や個別治療、オーダーメイド治療といったりもします。詳細な遺伝子の検査データに基づき、最適な治療を選ぶことです。ここ長浜の実地診療でもすでに行われています。

昨年のノーベル生理学・医学賞に京都大学の本庶佑先生が選ばれました。がんの新しい免疫療法の開発の業績が評価されたのです。このがんの新しい免疫療法の薬は商品名オプジーボといって、肺がんの治療の柱となっています。この薬はとても高価ですが、その効果も絶大で、転移のある肺がんであっても10%の患者さんが完治するようになり、肺がんも不治の病ではな

問 市立長浜病院
(☎6812300(代表))

なりつつあります。

肺がん遺伝子をゲノム解析して最も適した薬を選択するというのが、肺がん治療においては必須となっています。肺がん診療ガイドラインでは、まず肺がんの組織生検をして、細胞のがんに直接かわりを持つドライバ遺伝子の検査とがん免疫寛容状態の評価(OD)というがんが免疫をかくくぐる分子の発現頻度(CTLA)から、最も適した化学療法薬剤を選択するように定められています。その後の治療においても耐性遺伝子検査目的の再生検も必須で、この結果を基に化学療法で使用する薬剤の適応と効果的な順番が決まります。こういったゲノム時代の治療により10年前は平均生存期間が1年ほどであったIV期非小細胞肺がんも、現在は平均生存期間5年にもなっています。

ゲノム時代の肺がん治療は最新の知識と詳細な検査が必須となります。市立長浜病院がん相談支援センターにご相談ください。

的な地域を治めた有力者の墓と考えられています。

1,700年前から1,400年前の人々は古墳という大規模な土木工事に精魂を傾け、自然の中に人工的な丘を築いていました。造られた当時の思いは失われ、現在は自然と同化し、四季折々の景色を楽しむことができます。晴れた日に当時の人々に思いを馳せながら、姫塚古墳を訪れてみてはいかがでしょうか。